

環境政策 環境に配慮した産業の活気があふれ、国際貢献するまちをめざす**【環境政策の目標】〔総合的目標〕**

地域環境や地球環境を保全するためには、環境負荷の低減に寄与する技術の開発や産業の振興が不可欠です。また、いずれの産業においても環境対策・環境配慮が行われ、環境の保全・創造を基調とする社会経済活動が営まれることが重要であり、これらの結果が地域経済の活性化や雇用創出につながるものが大切です。以上のような環境と経済の好循環の実現、都市と産業との共生に向けて、国内はもとより海外への技術移転や人の交流等を進めることで、環境技術による国際貢献を果たし、環境保全を支える産業と社会の活力があふれるまちをめざします。

総合的な評価に用いる指標

施策の方向	指標	総合的な評価に用いるもの
V-1 環境関連産業の振興・育成	低CO ₂ 川崎ブランドの認定件数	○
	川崎国際環境技術展におけるビジネスマッチング数	○
	かわさきグリーンイノベーションクラスタの会員数	○
V-2 環境技術による国際貢献の推進	海外からの環境技術視察・研修の受入人数	○
	環境に係る国際会議・イベント等実施状況	
	環境技術開発に向けた事業者、大学、研究機関等との連携による共同研究の件数と実施内容	○

施策の方向 V-1 環境関連産業の振興・育成

指標	目標・現状・指標がめざす方向
低CO ₂ 川崎ブランドの認定件数	【基準年度】47件（2013年度）※1 【指標がめざす方向】多いほうが良い
川崎国際環境技術展におけるビジネスマッチング数	【基準年度】380件（2014年度）※2 【指標がめざす方向】多いほうが良い
かわさきグリーンイノベーションクラスタの会員数	【基準年度】37社（2015年度）※3 【指標がめざす方向】多いほうが良い

※1 2014年度実績から指標に追加したため、その前年度の2013年度を基準年度としています。

※2 2015年度実績から指標に追加したため、実績が確定している年度を基準年度としています。

※3 2016年度実績から指標に追加したため、実績が確定している年度を基準年度としています。

目標・指標の達成状況	指標評価	方向評価
■指標：低CO ₂ 川崎ブランドの認定件数 累計認定数70件（対前年度：5件増加、対基準年度：多い）	5*	5
■指標：川崎国際環境技術展におけるビジネスマッチング数 件数615件（対前年度：189件増加、対基準年度：多い）	5*	
■指標：かわさきグリーンイノベーションクラスタの会員数 件数47社（対前年度：10社増加、対基準年度：多い）	5*	

[方向評価は「*」の付いた指標評価の平均値をもとに評価しています]

現 状**■低CO₂川崎ブランドの認定件数**

低炭素社会の構築につながるものづくり等を応援するため、ライフサイクル全体でCO₂削減に貢献している川崎発の製品・技術等を評価し広く普及する「低CO₂川崎ブランド」を2009年度から試行的に実施し、2012年度から本格実施しています。

2016年度は、5件の製品・技術等を「低CO₂川崎ブランド」として認定するとともに、特に優

れたものを「低 CO₂川崎ブランド大賞」として選定し、川崎国際環境技術展などを通じて広報を行いました。

■川崎国際環境技術展におけるビジネスマッチング数

環境分野における優れた技術やノウハウを国内外に広く情報発信し、参加者の市場開拓や販路拡大、新たな人脈形成に繋がる交流の場を提供する「川崎国際環境技術展」を2009年から開催しています。

2016年度は、2017年2月16日、17日に開催し、133団体から216ブースの御来場がありました。また、中国・韓国等の海外来場者約200人を含め、約15,500人に御来場いただきました。

■かわさきグリーンイノベーションクラスタの会員数

2015年度に産学官民の連携によって環境改善に取り組み、産業振興と国際貢献を推進して新たな社会の形成を目指すネットワーク「かわさきグリーンイノベーションクラスタ」設立しました。

2016年度は新たに10社が会員となり、47社となりました。

施策の方向 V-2 環境技術による国際貢献の推進

指 標	目標・現状・指標がめざす方向
海外からの環境技術視察・研修の受入人数	【目標】現状より増やすこと 【基準年度】1,143人（2009年度） 【指標がめざす方向】多いほうが良い
環境に係る国際会議・イベント等実施状況	【基準年度】国際環境技術展2010の開催ほか（2009年度） 【指標がめざす方向】多いほうが良い
環境技術開発に向けた事業者、大学、研究機関等との連携による共同研究の件数と実施内容	【基準年度】環境技術産学公民連携公募型共同研究数（累積） ：12件ほか（2009年度） 【指標がめざす方向】多いほうが良い

目標・指標の達成状況	指標評価	方向評価
■指標：海外からの環境技術視察・研修の受入人数 ・受入人数 930人 エコタウン施設は538人で、前年度の423人に比べて115人の増加 その他の施設は392人で、前年度の423人に比べて31人の減少 （対前年度：84人増加、対基準年度：少ない）	2*	4
■指標：環境に係る国際会議・イベント等実施状況 国際環境技術展2017等を2回開催（対前年度：増減なし、対基準年度：多い）	4.5	
■指標：環境技術開発に向けた事業者、大学、研究機関等との連携による共同研究の件数と実施内容 微細藻類の新大量培養システムの研究開発ほか（累計件数55件）（対前年度：4件増加、対基準年度：多い）	5*	

[方向評価は「*」の付いた指標評価の平均値をもとに評価しています]

現 状

■海外からの環境技術視察・研修の受入人数

- ・川崎エコタウン会館を中核施設として、エコタウンへの視察希望者の受入を実施
- ・中国、ベトナム、ミャンマー、ラオス、メキシコ等の海外視察受入
- ・エコタウンを除く受入人数は392人
- ・川崎市-瀋陽市 PM2.5 共同研究の実施

■環境に係る国際会議・イベント等実施状況

- ・川崎国際環境技術展2017
優れた環境技術等を有する133団体（216ブース）が出展
中国・韓国等の海外からの約200人の来場を含め合計15,500人が来場
優れた環境技術の海外への移転に向けた海外企業と出展者とのビジネスマッチングを実施
- ・第13回アジア・太平洋エコビジネスフォーラム
アジア・太平洋地域をはじめとする参加都市間の信頼関係の醸成の場として、また、市内企業のすぐれた環境技術や国内外の先進的な環境技術・戦略の情報交換の場として、2017年2月16日に開催
中国・瀋陽市、マレーシア・ペナン州、インドネシア・バンドン市、ベトナム・バリアブントウ省などから延べ259名（うち海外からは5都市65名）が参加

■環境技術開発に向けた事業者、大学、研究機関等との連携による共同研究の件数と実施内容

- 2016年度の共同研究実施件数は6件、実施内容としては次のとおりです。
- ・微細藻類の新大量培養システムの研究開発

- 地域活性化と環境共生を両立する低炭素コミュニティの実現手法に関する研究
- 小型・可搬型・分散型かつ安価な少量・低温度域排熱利用の推進に向けての実用レベル研究（排熱回収・熱輸送技術の実用性の検証）
- 環境情報・写真データを用いたコミュニティ活性化支援に関する共同研究「環境」×「川崎の過去・現在」を対話する
- 既設太陽光パネルの洗浄方法と発電効率に関する実証
- ブラウンフィールドにおけるファイトレメディエーション導入の共同研究